子どもといっしょに教育を考える会との協議等議事録（要旨）

教育委員会事務局

１　日　　　　時　　令和７年３月 24 日（月）午前 10 時　～　正午
２　場　　　　所　　大阪市役所地下１階　第１共通会議室
３　団　体　名　　子どもといっしょに教育を考える会
４　協議等の趣旨　　「心の天気」入力強制について
５　出　席　者
（団体側）
代表者　他９名
（本　市）
教育委員会事務局　４名

６　議　　　　事
(1) 回答にかかわる再質問について
団体要望概要
（ア）「授業日において、児童・生徒の８割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の○％以上にする」との目標を各学校の「運営の計画」に入れるよう学校に指示した経過と理由について説明してほしい。
（イ）心の天気は、子どもが本音を入力することが前提だが、教員との間に信頼関係がなければ、本音を明かさない。本当に目的を果たせていると考えているか。
（ウ）子どもが心の天気を入力することについて、保護者には説明がないが、教育委員会は説明するよう指示したのか。保護者に説明は必要ないとの見解か。
（エ）「子どもが自分の心情をコントロールできるようになることを目指す」について、それなら先生に心情をさらす必要はないと考えるが、どうか。目指す状態にどうつながるのか。
（オ）子どもには心の天気を入力するという内心をさらす行為を断る権利はないのか。
（カ）相談のきっかけにしたいのであれば、毎日ペナルティを課してまで義務化する必要はないのではないか。子どもが相談したい時に相談できる態勢が併せて必要ではないか。
本市説明概要
（ア）経過は、１人１台端末の整備指針が令和元年度に国から出され、大阪市として令和２年度に１人１台端末を入れ、３年度から本格活用を始めて今４年間経った。しかし、GIGA スクール構想に基づく端末活用がこの間進んでおらず課題であったので、この目標を教育振興基本計画の中間見直しの中に入れ、それを学校や教員の方々にも深

く知っていただくために、運営の計画についても同じ文言を入れて周知を図ったということ。理由は、お金をかけて端末を入れたにもかかわらず、浸透しなかったので、なんとか全国的な動きに合わせて、大阪市としてもその活用率を上げて効果の検証をしたいということ。「心の天気」についての目標ではない。

（イ）教員側が児童生徒の日頃の表情とあわせて「心の天気」を活用していくことで、変化を事前に把握でき、子どもたちと向き合うきっかけづくりになっていると考えている。

（ウ）教育委員会事務局として、保護者へ事務連絡等を作成して通知してはいないが、子どもに対しては各教員より丁寧に説明している。また、学校だよりや学年だより等で保護者へ周知している学校もある。

（エ）「さらす」という言葉が出てきたが、不特定多数に見せるものではなくて、基本的には担任の先生あるいは管理職、管理権限を持った方がこの入力を確認するということ。日々の気持ちや心の変化について自分自身で記録していくことで、自己管理能力を伸ばし、客観的に自分のことを把握できることにも利用できると考えている。教員としても、児童生徒の日頃の表情とあわせて「心の天気」を活用していくことで、変化を敏感に確認することができ、子どもへの声かけを行う機会が増えるものと考えている。子どもによっては、曇りが一番調子が良いという子もいるし、通常時が常に雷を入れるという児童生徒もいる。継続的に記録していくことで、例えば聞いてほしい時にいつもと違うマークを入力するということで、先生にＳＯＳを出し、悩みを打ち明けるきっかけにもなっている。

（オ）子どもの好きなように入力できるようにしている。入力を嫌がる子についても、なぜその経緯になったのかということを教員が丁寧に聴き取りを行っており、内心をさらす行為とは認識していない。また、子ども自身がどうしても入力をしたくないという場合は、その子どもたちの人権にも配慮して、入力しないということもある。一方で、子どもたちが本当にＳＯＳを発信したい時にはどうするかというルールづくりも、しっかりその場でしているものと認識している。

（カ）「心の天気」の入力目標という数値は、本市としては掲げていない。どうしても嫌がる子については、先ほども言ったが、なぜそのような経緯に至ったのかということを丁寧に聴き取り、入力したくないという子どもたちの権利も保障しているものと考えている。

⑵「心の天気」入力強制は止めるべきとの要望について

団体要望概要

（キ）こどもの権利条約で意見表明権は、子どもが意見し大人が受け止めることがセットであり、心の天気を入力したくない児童生徒が入力しなくていいということが権利の保障と考えている。（意見のみ）

（ク）教員がなぜ入力しないのか理由を聞くことにより、子ども達は入力しないといけないと感じる。そのため、初めから入力してもしなくてもよいことをきちんと説明してほしい。

（ケ）タブレットの活用率を上げることと心の天気を入れさせることのどちらを目的としているのか。

（コ）心の天気を、端末からの入力ではなく、紙で管理したい場合は可能であるか。

（サ）入力した情報は、担任と管理職しか確認できない設定になっているのか。

（シ）心の天気を入力することへの管理が、監視となっていないか。（意見のみ）

（ス）学校やクラスによって、「心の天気」を入力しなかったら名前を黒板に書く、掃除の手伝いをさせるといった行為があることを認識しているか。また、そのような行為は適切と認識しているのか。

（セ）端末の活用率の数値目標のために、各学校は心の天気の入力を子どもたちに強制しているのではないか。

（ソ）心の天気を端末の使用率に含めなくてもいいのではないか。

（タ）子どもたちは、人としてコミュニケーションをする中で、人間としてのつながりの中で成長していける。つらいことも誰かに話ができる状況をつくることがめざされるべきなのに、反対の方に進んでいる。

（チ）コストパフォーマンスで教育を考えるのは間違い。子どもたちが初めて家庭から社会に出る、それが学校。担任の先生は家族以外の一番身近な存在で、信頼関係が一番。データではなく、クラスでの子どもの表情、声、仕草から子どもの状況を察することができる、そんな教師であってほしい。

（ツ）タブレットの利用率を上げるために、「心の天気」を使うのは間違っている。悪影響しかない。目標数値から省いてほしい。

（テ）「心の天気」入力が子どもにとって自分の自己管理能力を上げるという意味があると言われたがわからない。機械に向かって晴れや曇りやって入れることではなく、関係の中で育っていくもの。先生との信頼関係が前提で、それとセットでないと何の意味もない。

（ト）いろんな関係の中で発達していく子どもの心を４つの分類で入力させて自分の感情をコントロールなんて、すごい違和感。「心の天気」で早期発見、自己感情のコントロールを言うこと自体を止めてほしい。

（ナ）学校の中は、職員室、職員の関係が昔とは大きく違っている。自己コントロールというのが、そのような関係の中でマインドコントロールという、変なところに行く可能性もある。分かってもらえると子どもたちが感じる大人に私たちがなっているのかというところを常に問い返しながら進めていってほしい。

（ニ）今回の要望書を出す前に、学校から帰ってくる子などに実態を聞いた。「雷は入れない。入れたらいろいろ聞かれてめんどうだから。」など、多くの子が先生対策として

入力しているのが現実。めんどうだからという理由で入れたくないという子がいれば、それ以上言えない性質のもののはずだ。

（ヌ）先生と子どもの力関係の中で、「入れなさい。あなたのためです。」と言われて、「自分が困ったときに先生が聞いてくれる。だから入れよう。」とはならないと思う。

（ネ）子どもから、心の天気があってよかったというような声は届いているか。

（ノ）逆に心の天気が嫌であったという事例はあるか。

（ハ）子どもの声として、入力したことによって起きた問題はないか。またどのようにそれらの声をつかんでいるのか。指導主事が学校に訪問して学校から聞いているのか、直接子どもから聞いているのか。

（ヒ）養護教諭の先生は、データを見て心配なんて言う前に、「心配や」って直接声をかけていると思う。それを見ないとわからないような教師ばかりになってしまったとしたら、それこそが教師の専門性を失っている。なぜ大阪市で活用率が上がらなかったのか、どう分析しているのか。

（フ）開かないと言われたが、時間とかいろんなことで開けないのではないか。

（ヘ）数字ばかり言われるとプレッシャーになる。「心の天気」は入力さえしたらいい、活用率だけ上げるという発想になりかねない。表面的には、「心の天気」やPCの活用が問題になっているが、教育って何なのか、学ぶっていうことはどういうことなのかという大前提のところを教育委員会の人には考えてもらって、文部科学省に対して、果たしてそうなのか、大阪市の実態からするとどうなのか、逆に問い返すぐらいの自律性を持ってほしい。（意見のみ）

（ホ）「心の天気」の活用事例の資料はどこかで見られるか。こういう声があったとか、こういう問題があるとかいうのはどこにあるのか。

（マ）心の問題を扱っているということは、人権侵害につながるおそれもあり、慎重に扱ってほしい。例えばマニュアル的なもの、Q&A とかをつくるべきだ。生徒から入れたくないという声があるなら、こういう形で対応してくださいとかきちっと周知するべきだ。子どもの心を傷つけてしまわないように最低限それをやってほしい。（意見のみ）

（ミ）本当に悩みなり苦しいことがあるなら、それを4択でというのは、人を馬鹿にしている。子どもだからという理屈はよくあるが、大人にやったらだめなことは子どもに対してもやったらだめ。上司が「労働者の安全環境を守る義務があるから、朝4択で入力してくれ」と言ったら、これは人権侵害でパワハラだ。子どもにとっても同じだと認識してほしい。（意見のみ）

（ム）子どもは心の天気を伝える相手を選べないのか。

（メ）その活用率はわかるか。

（モ）学校にいる先生の中で、この人だったらって信頼できる先生と、なぜしゃべることができない環境なのか。

（ヤ）ますます人とのコミュニケーションの力が阻害されてしまうような方向に誘導してとは思わないか。

（ユ）ほとんどの子が直接言えるのなら「心の天気」を入力する必要がないのではないか。

（ヨ）本当に信頼関係がないと子どもは親にも言わない。不登校の子どもに、先生に来てもらっていいかとか、今日は学校に行けるかとか聞くと子どもがものすごくしんどそうだった。子どもが自分の感情を振り返るっていうことは、本当に落ち着いて自分を見つめるとか、話したら聞いてくれる人がいるっていう中でできてくるものではないか。（意見のみ）

（ラ）小学校５年生の男の子が今、不登校中。私の学校では少なくとも保護者向けの周知はしておらず、何でしていないんだろうとずっと思っていたが、教育委員会からは特にその周知をするということは伝えていないということを今日聞いた。「心の天気」をどのように活用していくのか、振り返るということを強制的にさせることがほんとうに意味あることなのかということについては疑問に思っている。（意見のみ）

（リ）最終的に１つ。「心の天気」については、授業中に使うということと全然質が異なることだと思うので、端末活用目標から外すということを検討いただきたい。

（ル）「心の天気」の契約業者のホームページに、「これを使ってもらったら端末活用率が上がりますよ」とある。それが宣伝文句になっている。だからこそ、黒板に名前を書くとか、入れない子は残って掃除当番をさせるとか、そういうことのつながってしまう。そこを認識して是正してほしい。（意見のみ）

本市説明概要

（ク）入力したくないという子もいるということは認識している。しかし、一度利用してみてその良さに気づいてもらうきっかけも必要と考える。

（ケ）心の天気は、タブレットの活用率とは関係なく、子どもたちが自己管理能力を養うことを目的としている。

（コ）日々、入力することでこども自身も変化に気づくことにつながる。紙で心の天気を記録することも運用上問題ないが、タブレットで行うことでよりリアルタイムに把握することができ、支援へと繋ぐことができる。

（サ）各学校に権限を与えており、各学校で設定できる。

（ス）黒板に名前を書くことは、どのような目的で書いているかによって変わってくる。また、入力をしていないために掃除をさせたりということは不適切であると認識している。

（セ）天気の入力も端末の活用率にカウントはされるが、心の天気の入力は子どもたちの変化に気付くきっかけの一つと認識しており、入力は必須と考えていない。子どもたちの事情を聞いたうえで、入力を強制することはない。

（ソ）学力・学習状況調査において、大阪市は端末を週３日以上利用している割合が、全国

よりかなり低い。本市では端末を活用することで学力を上げることを目標としているが、まずは端末の様々なツールで端末自体に興味を持ってもらいたいと考えている。

（タ～ニ）日頃の様子の変化から「何かあったの？」と先生の方から声をかけたり、子どもから「先生、こんなことで困っているんだ」と相談が来るような関係性を保てるのが我々も一番だと承知している。しかし、それが難しい条件、状況もある中で、話のきっかけの一つになると思っている。日頃ずっと入力している子がしていなかったら、その子に確認する必要はある。

（ヌ）担任の先生とか、相談する先生への信頼関係が絶対必要と思っているが、全ての担任の先生が全ての子どもとそれが築けるかというと現実的でない。「心の天気」入力が一つのきっかけとなって、チーム学校として対処していけるよう、各学校の実情に合わせて運用していただいていると思っている。

（ネ）市教委の違うグループが各学校を訪問して、うまくいったという子どもの実際の声を集約して、２か月に１回ぐらい、事例を通知している。「心の天気」が先生と相談するきっかけになったとか、家庭や塾の悩みについて話を聞いてもらえて楽になったというような事例を各学校に配信している。

（ノ）なぜこういうのを入れなければならないのというような反応も子どもたちから結構ある。そういう時に先生方はこうやって対応したら、こどもたちが実際進んで入力したという事例も紹介している。

（ハ）直接我々が聞いているわけではない。学校がまとめたことを聞いている。

（ヒ）この間実証事業をしたりして事例を積み上げている。総合教育センターから、目的、活用事例等を全校に周知とかしているが、そもそも端末を開かないというところがある。

（フ）今年度から、総合教育センターの担当指導主事が実際に現場に行って、こういう使い方ができるよと案内するとか、支援体制を強化する動きはしている。端末はあくまでツール。その奥にある目的をしっかり伝えることが、学校現場に対するアプローチとしては有効と理解しながらも、なかなかそれが伝えきれていないという現状だ。

（ホ）教員向けのサイトに周知している。

（ム）二重のセーフティネットとして、相談申告機能があり、子どもは自身で選んだ相手に相談できる。管理職は申告があったことのみ分かる仕組みである。

（メ）活用率とかは一切取っていない。残ってしまうことで誰かが見てしまう恐れがあるので、入力して送信した時点で、入力、送信履歴とも残らない仕様になっている。

（モ）多分９割５分くらいは直接先生に直接言っていると思う。少ない子かもしれないがなかなか人前でいえないとか、その勇気がなかなか持てない子もいるので、そういう子たちも救ってあげたいという気持ちで入れている。

（ヤ）相談できる相談先を増やしているという認識だ。

(ユ)「心の天気」は、自分の自己管理能力を高めて、自分の振り返りに使うことを主の目的にしている。

(リ)「心の天気」を入れたら目標達成できるというような指示はしていないが、そうとらえられているところがあるのかなと思うので、事務局からの目標に関する説明が不足だったのかなと感じている。周知のしかた、学校現場への伝え方を検討させていただきたい。